

平成 22 年 4 月 1 日現在

研究種目：基盤研究(A)
研究期間：2007～2010
課題番号：19202019
研究課題名（和文） 近代移行期の港市における奴隷・移住者・混血者—広域社会秩序と地域秩序
研究課題名（英文） The Changing Intermediary Role of Slaves, Immigrants and Mixed Blooded People between Local and Foreign Communities at Port Cities during the 19 th and early 20 th Centuries
研究代表者 弘末 雅士 (HIROSUE MASASHI) 立教大学・文学部・教授 研究者番号：40208872

研究代表者の専門分野：東南アジア史

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：港市 環シナ海世界 環インド洋世界 環地中海世界 環大西洋世界
環太平洋世界 奴隷 現地妻

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、世界の諸海域世界（環シナ海世界、環インド洋世界、環地中海世界、環大西洋世界、環太平洋世界）のつなぎ目となった港市において、外部世界と現地世界を仲介した奴隷・移住者・混血者の役割に注目し、前近代から近代にかけての広域社会秩序と地域秩序の変遷を検討することを目的としている。

2. 研究の進捗状況

(1) 奴隷に関して、その歴史的展開と地域的特質を系統的に検討してきた。古代ギリシア・ローマからイスラーム世界さらには大航海時代のイベリア半島地域における奴隷の歴史的展開を連関的に検討しつつ、東アジアや東南アジア、南アジアにおける隷属民の特質と近世におけるその変遷を追跡してきた。またポルトガルやオランダ、イギリスなどによって、奴隷が広域に売買され始めて以降、奴隷は港市の広域社会秩序を支える重要な一翼となったが、同時に外部地域へ奴隷を取引することへの在地権力の複雑な反応が明らかとなった。

(2) 外来の移住者を現地社会に仲介した現地人妻妾の役割について、検討してきた。女奴隷がその役割を担った西アジア、ムスリム女性が妻妾となった南アジアや東南アジア、遊女がその役割を担った東アジアなど、各地域の対応の仕方と外来者コミュニティと現地社会との関係が明らかとなった。合わせて、

こうした女性に注がれた視線の変遷について検討してきた。

(3) 外来者にアテンドした奴隷や妻妾の子孫である混血者たちの、港市の社会統合における役割を検討した。南アジアや東南アジアさらに東アジアの前近代の港市において、こうした存在は、通訳や文化交流に重要な役割を担った。また、大航海時代以降アジアやラテンアメリカに進出したポルトガル人の子孫が、その地のカソリック教会の運営に現在にいたるまで中核的な役割を担ってきた。さらに近現代に比し、こうした混血者が当該社会において、あまり蔑視の対象となっていないことが明らかとなった。

(4) 移住先で少数派となる移住者集団が、出身地との関係を保持しつつ、移住先の社会秩序の構築に少なからず重要な役割を担うことが、イギリスやアメリカ、南アフリカの事例をとおして明らかとなった。上記の混血者の場合とともに、近代移行期における彼らの広域秩序と地域秩序への関わり方を解明することの重要性が、改めて喚起された。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

広域でかつ世界的規模で考察する必要のあるテーマであるが、当研究プロジェクトのメンバーが、多様な地域と時代の専門家より構成されている利点を活かし、また研究会に

テーマに関係する研究者をゲストスピーカーとして招聘して比較研究を進めたことで、順調に成果を上げてきたと自己評価している。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 奴隷が廃止され、また現地人妻妾が後退した近代以降、現地社会と外来者との関係はどのように変化したのか、混血者への蔑視観や人種主義の台頭と連関させて検討する。

(2) 近代以降、混血者や移住者が、広域ネットワークを意識しながら、いかに当該の地域秩序の構築に関わったのか検討する。国民統合における彼らの役割についても考察する。

(3) 近代と前近代を媒介的に検討し、近代をつくりあげたものが何であったのか、総括的に考察する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 33 件)

- ① 弘末雅士、「ミステリアスな現地妻 (ニヤイ) — インドネシア民族意識の生みの母?」、『史苑』、70 巻第 1 号、1-11、2009 年、査読 (無)
- ② 鈴木信昭、「利瑪とう『兩儀玄覽図』攷」、『朝鮮学報』、206 巻、1-40、2008 年、査読 (有)
- ③ 貴堂嘉之、「「人種化」の近代とアメリカ合衆国—ソシアビリテの交錯と「国民」の境界—」、『歴史学研究』、846 号、90-99、2008 年、査読 (有)

[学会発表] (計 19 件)

- ① 大石高志、「インド系ムスリム商人と東南アジア：広域ネットワークの地域接合とその歴史の変容」、国際東方学会会議 (東方学会)、2008 年 5 月 16 日、日本教育会館 (東京)

[図書] (計 18 件)

- ① 弘末雅士、The Toyo Bunko, *The Changing Self Image of Southeast Asian Society during the 19th and 20th Centuries*, (edited by ISHII Yoneo), 2009, 114-139 (担当箇所: “The Changing Intermediary Role of Indonesian Concubines between European and Local Communities at the Turn of the Twentieth Century”)